

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告

2026年1月

◇◆観光立国タイの観光産業の現状と今後の見通し◆◇

タイは観光業がGDPの約20%前後を占めており、製造業と並んで主要産業の一つです。タイにとって観光産業は外貨獲得、雇用創出、地域経済の活性化と、経済面で重要な役割を果たしており、タイ経済全体の成長を支える基幹産業として位置付けられています。

今回はタイの観光産業について現状・今後の見通しとともに、タイ経済に与える影響についてお伝えします。

【タイの観光産業の現状】

タイは長年、外国人観光客数で世界トップ10の常連であり、「観光立国」として高い評価を受けてきました。アユタヤ遺跡などの世界遺産、北部の山や南部の海などの豊かな自然、多様なグルメなどの豊富な観光資源をもち、幅広い価格帯の宿泊施設や整備された交通網などの観光インフラも充実しています。これらを背景に、長年にわたり多くの外国人観光客を受け入れ、経済成長の重要な柱となっていました。しかし、世界的なパンデミックや国際情勢の変化を経て、2024年～2025年には訪問者数や観光収入の伸びが一時的に鈍化しました。タイ政府観光庁(TAT)の統計によると、2025年の外国人観光客数は約3,300万人で前年に比べて約7.2%減少し、コロナ禍以降初めての年間減少となりました。観光収入も総額で約2兆7033億3,350万バーツと前年から1.26%減少し、国際観光収入(1兆5,365億7,400万バーツ)は前年を下回っています。

こうした数字は、依然としてタイが世界的に人気の高い観光地であることを示す一方で、回復を拒む要因も示しています。特に中国からの観光客の減少が顕著で、コロナ前には年間1,000万人以上で国別1位を記録していたものの、2025年は約500万人と半減しています。この理由としては、中国人俳優がミャンマーの詐欺組織に誘拐された事件や、2023年10月に発生した銃乱射事件で中国人が死亡するなど、治安に対する不安が大きく影響しているものと思われます。

一方で欧米からの観光客は増加傾向にあり、特に英国やドイツ、フランスからの訪問者数は過去最高を記録しました。英国からの訪問による観光収入は前年から約21.7%増加するなど、質の高い観光需要を引き寄せていることは明るい材料と言えます。

【観光産業を取り巻く課題】

タイの観光産業は依然として高い潜在力を有していますが、いくつかの課題も抱いています。最も顕著なのは、主要市場の変動と国際競争の激化に対する対応です。上述の通り、中国は従来タイへの最大の観光市場でしたが、経済状況や安全性への懸念から訪問者数が大幅に落ち込み、この影響が全体の統計にも大きく反映されています。一方、東南アジアの競合



世界遺産に登録されているアユタヤ遺跡



外国人観光客に人気のビーチリゾート

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告

2026年1月

国であるシンガポール、マレーシア、ベトナムの各国は、観光戦略を強化して訪問者数を増やしています。特にベトナムは2025年の外国人観光客数が2100万人と過去最高を記録し、タイにとって大きな脅威となっています。

また、旅行コストに影響を与えるタイバーツの為替相場も観光需要に影響を及ぼしています。2019年以降、バーツはドル、円、元、ユーロなど主要通貨に対して上昇傾向が続いており、外国人観光客にとって宿泊費、飲食費、交通費が上昇し、タイをより高価な旅行先として映らせる要因となり、競争力を大きく低下させる要因となっています。

加えて、観光産業は自然災害や国際情勢の影響を受けやすいという構造的な脆弱性も抱えています。2025年は洪水や国境紛争の影響が外国人観光客の消費行動に影響を与えたと考えられ、安定した受入環境の整備が課題となっています。

【今後の見通し—2026年の戦略と展望】

タイ政府観光庁（TAT）は、外国人観光客数の回復と観光の質の向上を目指し、複数の戦略を打ち出しています。2026年の目標として外国人観光客数3670万人、観光収入約3兆バーツを掲げ、国内外でのプロモーションを強化しています。

国家経済社会開発評議会（NESDC）の予測によれば、2026年の国際観光客数は約3,500万人に増加し、外国人観光客からの収入は約1.65兆バーツ（前年比約8.6%増）に達する見通しです。航空路線の拡大、欧米からの長距離旅客の増加、旅行者一人あたりの平均支出の上昇が寄与するとされています。

また、タイ政府は観光の質的高度化を目指し、ウェルネスツーリズムやスポーツ・文化イベント、MICE（会議・イベント）誘致の促進にも取り組んでいます。

・ウェルネスツーリズム

医療水準の高さ、スパや伝統医療、温暖な気候といった強みを活かし、高所得層や長期滞在者を取り込むことで宿泊単価や関連消費を増加させ、収入の安定化を図ります。

・スポーツ・文化イベント

国際的な認知度向上や再訪需要を促進し、観光の裾野を広げます。特に地方都市での開催は、観光収益の分散やインフラ整備の促進に好影響をもたらします。

・MICE（会議・イベント）

一般観光に比べて消費額が大きく、ビジネス交流や投資誘致とも連動しやすいため、観光を通じた産業振興や国際競争力の向上につながります。

これらの分野を戦略的に強化することで、タイは「量に依存しない持続可能な観光モデル」への転換を進めています。観光業の安定化は、タイ経済全体の安定性向上にも寄与することが期待されます。

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告

2026年1月

鳥取県東南アジアビューロー Tottori-Southeast Asia Trade and Tourism Bureau

担当：辻 三朗 Saburo Tsuji

Address: 1 VASU 1 Building, 12 FL., Room 1202/C, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd.,
Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Tel : +66-(0)-2-260-1057

Mobile : +66-(0)-86-358-7298

Mail : tottori@aapth.com

【鳥取県東南アジアビューローの運営法人（鳥取県より業務委託）】

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インド・メキシコにて主に日系中堅・中小企業様の海外進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

【免責事項】

■情報の掲載内容には万全を期しておりますが、その正確性、完全性、有用性、適用性についていかなる保証も行いません。また、その利用により生じた被害や損害に関して一切の責任を負いません。

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2025年12月

ワンページタイ経済

項目	単位	2022	2023	2024	2025
GDP成長率	前年比ペ ^ー (%)	2.7	1.9	2.3	2.4 (9月)
人口*	千人	69,922	70,104	70,245	70,383 (9月)
労働者の数*	千人	40,143	40,674	40,765	40,154 (11月)
失業率**	%	1.32	0.98	1.00	0.81 (11月)
最低賃金* バンコク チョンブリー アユタヤー ^ー ラヨーン	バーツ/日	353 354 343 354	353 354 343 354	363 361 350 361	400 400 357 400
賃金：全国製造業の平均	バーツ	14,305	14,416	14,394	14,394 (2024年)
インフレ率**	前年比ペ ^ー (%)	6.08	1.23	0.06	-0.28 (12月)
中央銀行政策金利*	%	1.25	2.50	2.25	1.25 (12月)
普通貯金率**	%	0.28	0.40	0.39	0.20 (12月)
ローン金利(MLR) **	%	5.50	6.83	7.14	7.01 (12月)
SET指数*	1975年：100	1,668.66	1,415.85	1,400.21	1,259.67 (12月)
バーツ/100円**	バーツ	26.78	24.82	23.33	22.00 (12月)
バーツ/米ドル**	バーツ	35.06	34.80	35.29	32.88 (12月)
円/米ドル**	円	131.38	144.07	153.72	155.88 (12月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	856,057	702,921	559,255	543,677 (11月)
BOI認可プロジェクト	件数	1,554	2,383	2,953	2,413 (9月)
BOI認可プロジェクト金額	10億バーツ	618.62	750.12	973.14	1,114.798 (9月)

*期末、**平均